

地域県土警察常任委員会資料

(令和7年2月21日)

ページ

- 「とっとり若者Uターン・定住戦略本部」令和6年度の取組状況について
【人口減少社会対策課】・・・2
- 令和6年度鳥取県ミラ・クル・とっとり運動・SDGs活動表彰について
【協働参画課】・・・4
- 空き家利活用コンテスト2024の結果について
【中山間・地域振興課】・・・6
- 次期「鳥取県中部地域公共交通計画」の策定について
【交通政策課】・・・7
- 鳥取砂丘コナン空港第2期コンセッションの募集要項等に関する説明会の開催結果について
【交通政策課】・・・9
- 鳥取県サイクルツーリズム推進・連携会議の開催結果について
【観光戦略課】・・・10
- 大阪・関西万博に向けた本県の主な推進状況について
【観光戦略課】・・・11
- 国際航空路線の最近の動きについて
【国際観光課】・・・12
- 地域における外国人住民との共生推進研修会の開催について
【交流推進課】・・・13

輝く鳥取創造本部

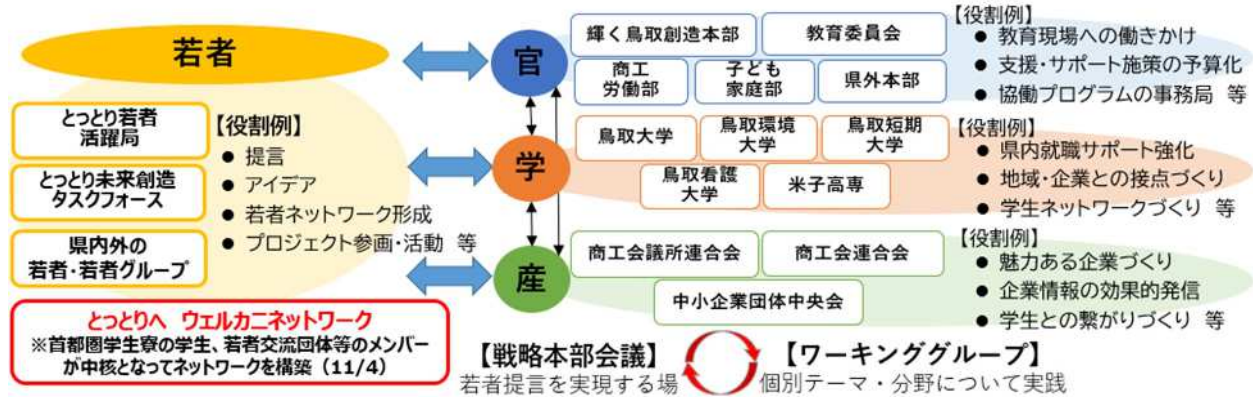
「とっとり若者Uターン・定住戦略本部」令和6年度の取組状況について

令和7年2月21日
人口減少社会対策課

若者のUターン・定住を促進するための実行組織として、今年度設置した「とっとり若者Uターン・定住戦略本部」（令和6年4月1日設置）の活動概要を報告します。

1 目的・体制等

- (1) 目的 転出超過（社会減）の主要因となっている若者世代（10・20代）に対して、若者・産学官が協働し、若者Uターン・定住に繋がる実効性のあるアクションを実行
⇒ 「若者⇄産・学・官」の新たな協働の仕組み・流れの構築
- (2) 活動体制



- (3) 会議等 戦略本部会議：3回（令和6年5月20日、11月20日、令和7年2月4日）
ワーキンググループ（全体）：2回（令和6年7月3日・29日）
※若者活躍局・タスクフォースによる知事への政策提案会（令和6年10月27日）

2 活動概要

若者意見・提案等を踏まえ、「高校生までの学生へのアクション」「県内大学生等へのアクション」「県外進学・就職者へのアクション」について、若者・産学官をはじめとした幅広いステークホルダーと連携し必要な対策を積極的に実施。

(1) 高校生までの学生へのアクション

◇ 高校生の地域活動の推進

- ・高校等に在籍する個人又はグループが行う自主的な活動や、大学生や地域住民・団体、企業等と連携した様々な取組を支援（最大50万円）
＜今年度1件交付決定＞
高校生が商店街（米子市）で自習室を運営。同商店街の活性化の方策を地域ぐるみで考える取組。

◇ 若者の共感を生むデジタル教材の制作

- ・若者意見を取り込んだ「とっとりデジタル教材」を制作。来年度から中高生を対象に授業で活用予定。
※県内各産業で活躍する「人」の紹介を中心に、職業選択、観光・産業・住みやすさ等を訴求する内容。

◇ やってみたいプロジェクト

- ・戦略本部メンバーである鳥取大学生が発案し、大学生と中高生が協力したイベントを企画・実施。
＜企画イベント＞
「流し〇〇（まるまる）～鳥取のうまいもの流し隊～」(11/9（土）、@風紋広場)



「とっとりデジタル教材」画面イメージ

(2) 県内大学生等へのアクション

◇ 暮らしインターンシッププログラムの開発

- ・若者目線で地域や県内企業の魅力を知ることができる「暮らしインターンシップ」を開発。地域内での職業体験とゲストハウス等の滞在・交流を組合せ、鳥取での働き暮らし将来像を描けるプログラムとしてモニタリング実施。
＜今年度実施プログラム＞
倉吉市：職業体験＋白壁土蔵群散策等で交流
琴浦町：職業体験＋ジャム作り等で交流
大山町：職業体験＋歴史・文化ツアーで交流



職場体験の合間に地域散策

◇ 学生ライターによる企業・地域の取材等

- ・県内大学生が地域での体験・取材をした内容を「とっとりずむ」で記事化して公開・発信。※戦略本部会議メンバーが記事作成及び発信等をサポート。

◇ 学生 CoRE コミュニケーターの構築・運営

- ・地域の課題解決や相互交流を活性化することで学生の県内定着を促進することを目的に学生 CoRE コミュニケーター（18 名）を委嘱。3つのテーマ（①県内企業との連携プロジェクト、②地域との連携プロジェクト、③高校との連携「大高連携」）をプロジェクト化して活動。

（3）県外進学・就職者へのアクション

◇ 親・家族へのアプローチ

- ・親・家族目線で帰省に訴求力のある動画を制作し、テレビCMで放送。
- ・保護者にも県内企業を知ってもらう「社会見学（バスツアー）」を実施。
- ・親世代が目にする「県政だより」で就職・移住情報の発信。

◇ 新成人へのUターン・定住キャンペーン

- ・「とりふる」の活用が最も見込まれる新成人を狙い、鳥取市、倉吉市、米子市で行われた式典で「とりふる」をPR。年末年始で全市町村にチラシ配布。
- ※新成人限定で登録者に 500 ポイントプレゼントする「とりふる登録キャンペーン～2025 冬～」を実施。



「鳥縁祭」での集合写真

◇ 都市部と繋がり続けるプラットフォームの構築

- ・都市部で緩く繋がり続ける仕組み「とっとりへウェルカニネットワーク」を構築。中核となる学生寮の若者等をプランナー（8名）、コミュニティ代表者等をコンシェルジュ（4名）に任命。（R6. 11. 4 任命式）

「繋がり」をキーワードに関係人口の拡大・U I ターンを推進。

<活動内容>

- ・首都圏の学生・社会人大交流会「鳥縁祭（とりえんさい）」の開催
日にち：2月8日、会場：渋谷ソラスタ（東京都）、参加者数：首都圏在住の学生等 120 名
内容：<コンセプト>「鳥取のご縁が集う学校外/社外の文化祭」
ゲストによるトークセッション、ブース巡り・交流、ビンゴ大会、記念撮影
ブースは、首都圏若者、とっとり若者活躍局、県（とりふる・バーチャルとっとり等）、飲食等
※バーチャルとっとり【ゆるく繋がる交流会】を同時開催。東京・鳥取・バーチャルで繋がり構築
- ・その他若者目線の交流イベントを定期的に企画・実施。
- ・首都圏本県ゆかりの人・店・イベント等を取材。Instagram で順次発信中。

3 今後の方向性

（1）今後の活動・実行の方向性

若者Uターン・定住促進（社会減対策）の鍵となる、“若者・女性にも選ばれる地域づくり”に向けて、若者意見やデータ分析等を踏まえ、若者・産学官の連携により、一層実効性を高めた施策の構築・実践を進める。

ア 情報発信ツールの強化（若者と企業・地域が繋がり続ける LINE「とりふる 2.0」の構築等）

イ 企業・地域の新たな接点づくり（若者と企業や大学・専門学校が交流する「交流 FES」の開催等）

ウ Uターン・定住を後押しする支援の拡充（産業界と連携した奨学金返還支援の全業種への対象拡大等）

エ 若者ネットワークの創出・進化

オ ふるさとキャリア教育の更なる充実・強化（「人」に着目した“魅力を知る”、“交流する”機会の充実等）

カ 出会いの場・機会の創出

キ 女性が働きやすい職場環境づくり（アンコンシャスバイアスへの気づき促進等）

（2）第3回本部会議（2/4）での出席者の主な発言

- ・若者向け情報発信は、Instagram、YouTube 等の若者向けツールで鳥取の魅力を楽しく伝えることが効果的。「とりふる 2.0」構築に当たって、ほとんどの若者がダウンロードしている LINE アプリの活用は最適。
- ・情報発信では、若者自身による発信や、何が鳥取の魅力なのか等の言語化・明確化が大切。
- ・学生ライターの取り組みでは、高校生・大学生が参加。地域との繋がりも生まれ、地域への愛着が高まった。
- ・「とりふる 2.0」の LINE での構築、奨学金返還支援の全業種への対象拡大はとてもよい動きになりそう。
- ・奨学金返還助成が全業種に拡大されるのは県内就職・定着に期待ができる。商工会も一緒に取り組みたい。
- ・商工会議所では、女性活躍・若者定住に向けた特別委員会を設置し人口減少対策に本格的に取り組んでいく。
- ・鳥取大学内に「地域未来共創センター」を設置（令和 7 年 4 月）し、県内定着を強化する。
- ・交流 FES の開催に当たっては、会議室ではなく、若者が参加したくなるような場所や仕掛けの工夫が必要。
- ・首都圏で鳥取のご縁が集う「鳥縁祭」は、東京にいながら鳥取の魅力を再発見する恒例行事としたい。
- ・関西圏では、緩やかな繋がりコミュニティを構築中で、関西に出てくる若者のサポートも行っていく。

令和6年度 鳥取県ミラ・クル・とっとり運動・SDGs 活動表彰について

令和7年2月21日
協働参画課

地域づくり活動への意欲を高めるとともに、地域の良さを再認識し、地域への愛着を深めることにつなげるため、地域や団体等の特色を生かした活動を積極的に展開している団体、学生、児童又は生徒等の優秀な取組を表彰しました。

1 表彰の概要

- (1) 表彰の対象 県内で令和6年中に実施されたSDGsの視点に基づく地域づくり活動
(2) 応募数 35件(一般部門20件、学生部門15件)

2 表彰式の概要

- (1) 日時 令和7年2月9日(日)午後1時から午後1時50分まで
(2) 会場 鳥取県立図書館「大研修室」
(3) 出席者 平井知事、(株)鳥取銀行 入江頭取、
あいおいニッセイ同和損害保険(株)鳥取支店 金丸室長、
ミラ・クル・とっとり運動推進委員会 木原表彰部会長、
受賞団体代表者



3 受賞団体

- (1) 一般部門
ア 最優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
三柳団地2区 防災会	三柳団地2区・加茂三区中 SEE防災プロジェクト(支え愛 地域づくりの拡大) (米子市)	高齢者と障がい者及び子ども連れ家庭等が災害に備え、 普段から支え愛(見守りや心配)ができる地域づくりを行う ため、近隣の自治会と協働し、防災フェスティバルや防災 研修等を実施した。 ※SEE:safe(安全)evacuation(危 険な場所から安全な場所への避難)everyone(全ての 人)⇒全員の安全な避難

イ 協賛企業賞

団体名	活動名・地域	活動内容
あいおいニッセイ同和損保賞		
特定非営利活動 法人 ピアサポー トつむぎ	周囲の大人に理解され、受け 入れられる実感を生きる力に変 える事業(倉吉市)	不登校や発達障害等の困り感を抱える子どもや家族がい つでも相談できるピアサポートの場づくりほか、講座や研 修会を実施した。
大塚製菓賞		
るりゆーる	音楽でつながる、笑顔が広がる。 地域まるごと育ち合い。 (鳥取市他)	子育てをしている母親を中心に、子育てに関わる人を応 援するため、音楽を使って人と人とがつながる活動を実 施した。

ウ 優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
学校法人かいけ 幼稚園	学校法人かいけ幼稚園SDGs 推進活動「じぶんごとぷろじえく と」(米子市)	幼稚園児のうちに、SDGsに関する取組やSDGsをじぶ んごととして捉えることができるように、園全体で海岸の 清掃や野菜の栽培などを行い、地球の未来について考 え行動した。
特定非営利活動 法人 十人十色	福祉活動、安心・安全な地域 づくり、地域交流、伝統・文化 の保存(鳥取市)	休耕田を活用した米づくりや、味噌やお茶などの生産や 加工、稲刈りの体験等を実施し、地域の手伝いや自然災 害の際に近隣の支援を積極的に行った。
特定非営利活動 法人 はなとたね	「桃フェス」神戸地区の特産の 桃を活用した地域活性化 (鳥取市)	「桃フェス」を開催し、まだ食べることができるのに廃棄さ れていた「くず桃」を使ったスイーツなどの販売や子ども 楽しめるお祭りを開催した。

(2) 学生部門

ア ミライを担うとりぎん大賞

団体名	活動名・地域	活動内容
農業スクール系	子ども主体の農業活動 ～農でつながる地域をつくろう～ (日吉津村)	中学生4名で活動を行い、耕作放棄地の再生、新しいオーガニック特産品の開発などの農業活動を行った。

イ 最優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
大学生の部		
チーム・地産知承	チーム・地産知承 (湯梨浜町)	橋津地区の藩倉で、清掃活動やフォトコンテスト、地酒の試飲会など、地域資源を活かすイベントを企画・開催した。
高校生の部		
青谷高校ソーシャルアクション同好会	とっとり環境地引き網 (鳥取市)	海岸の清掃と地引き網のコラボイベントを開催し、地域の子供達に海の現状を伝え、海の豊かさを伝える活動を行った。
小中学生の部		
ひがしやマルシェ実行委員会	ひがしやマルシェ～中学生が0からマルシェを企画・運営！～ ～地域おこしを身近に！ノウハウを動画やサイトで発信！～ (米子市)	東山地区の魅力あるお店を集めたお祭りのようなイベント「ひがしやマルシェ」を、令和5年度の東山中学校での実施から、地域での開催に拡大して開催した。

ウ 優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
大学生の部		
マルビバ	多様な子どもの遊び場×学び場を作ろう(鳥取市、倉吉市)	子どもや子育て世代を対象に、地域のイベントでの出店、縁日やクッキング、工作などの自主イベントを企画・実施した。
高校生の部		
CAS小夏チーム	SOTOランドセルプロジェクト～アフガニスタンの子どもたちへ高校生からのランドセルギフト～ (倉吉市)	在校生に呼びかけて使わなくなったランドセルを集め、アフガニスタンの子供たちへ贈る取組を実施し、輸送費を募るため、学園祭でのバザー開催、祭りで出店を行った。
青翔開智中学校・高等学校古本市制作委員会	古本市 in 青翔開智2024 ～The Final～ (鳥取市)	学校と県内のスーパーマーケットで事前に回収した古本を学校で販売し、売り上げを能登半島地震義援金へ寄付した。
鳥取西高連	鳥取来んさいな～鳥取に感謝を～ (鳥取市)	第60回「鳥取しゃんしゃん祭」に高校生連として参加するとともに、他校の参加拡大につなげたいと、しゃんしゃん祭の参加マニュアル作成に取り組む中。
小中学生の部		
ディザプロ災害対策課	ディザプロ～カードバトルで防災レベルアップ～ (米子市)	「ディザプロ」という小学生でも楽しめる防災カードゲームを開発し、米子市内の小中学生に体験してもらったり、東山中学校の休憩時間に遊べるように取り組んだ。

(参考) 応募数の推移

- ・一般部門 R3:19件 R4:23件 R5:31件 R6:20件
- ・学生部門 R3: 8件 R4: 7件 R5: 7件 R6:15件

空き家利活用コンテスト 2024 の結果について

令和 7 年 2 月 21 日
中山間・地域振興課

空き家を改修して、その魅力や利用価値を向上させ利活用している好事例を広く県内に周知し、空き家利活用に対する県民の意識醸成を図ることを目的として実施した「空き家利活用コンテスト 2024」について、入賞事例を決定し、2 月 13 日に表彰式を実施しましたので報告します。

1 空き家利活用コンテスト 2024 の概要

- ・表 彰 式： 令和 7 年 2 月 13 日（木） 県庁 本庁舎 3 階 第 4 応接室
- ・募集内容： 県内で空き家を改修し、現在も利活用している以下の事例
 - ①空き家を改修し、住宅として利活用している事例（住宅部門）
 - ②空き家を改修し、店舗や宿泊施設など非住宅の用途で利活用している事例（非住宅部門）
- ・応募条件： 県内の空き家（空き家になる前の用途が住宅で、1 年以上活用がない建築物）で平成 26 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日までに改修工事が終了した事例であること
- ・募集期間等： 令和 6 年 7 月 1 日～8 月 30 日
 - ・第 1 次審査（書面審査）：10 月 1 日
 - ・第 2 次審査（現地審査）：12 月 3 日、9 日
- ・応募件数： 10 件（住宅部門 4 件、非住宅部門 6 件）
- ・審 査 等： 専門家等で構成する「空き家利活用・街なみづくり関連事業等審査会（委員：5 名、委員長：来田裕子氏（くるた ゆうこ、鳥取県建築士会理事／(株)桜や建築設計工房代表)）」で書類審査及び現地審査を実施した。



2 審査結果(入賞事例)

○最優秀賞として住宅・非住宅部門毎に 1 事例、優秀賞として住宅部門で 2 事例、非住宅部門で 3 事例が選定されました。

<住宅部門>

賞	受賞事例	受賞者（代表者）	所在地
最優秀賞	M邸	森 智広	八頭町
優秀賞 （住み継ぐ家賞）	O邸	小椋 亮典	三朝町
優秀賞 （ライフスタイル賞）	SAKAE HUB （さかえハブ）	高島 祐亮	境港市

<非住宅部門>

賞	受賞事例	受賞者（代表者）	所在地
最優秀賞	稲妻飯店	山田 大樹	鳥取市鹿野町
優秀賞 （地域貢献賞）	CAFE2020 （カフェつれづれ）	福留 大樹	大山町
優秀賞 （デザイン賞）	HINO suite du Petit Marche` （ヒノ スュイットデュ プチ マ ルシェ）	鈴木 松太郎	米子市
優秀賞 （アイデア賞）	ホームベース焙煎所	井高 泰宣	北栄町

※表彰式には最優秀賞 2 組と優秀賞 4 組が参加され、平井知事から受賞者の代表に表彰盾及び副賞の授与を行いました。



次期「鳥取県中部地域公共交通計画」の策定について

令和7年2月21日 交通政策課

県、県中部地域の市町、交通事業者、利用者代表等で構成する鳥取県中部地域公共交通協議会では、県中部地域の公共交通ネットワークを再構築するため、平成29年3月に「鳥取県中部地域公共交通計画（策定時：鳥取県中部地域公共交通網形成計画）」を策定しています。

現計画が令和6年度末で期間満了となることから、次期計画策定に向け、「鳥取県中部地域公共交通計画（案）」を作成し、現在パブリックコメントを実施していますので報告します。

1 検討組織

鳥取県中部地域公共交通協議会（会長：倉吉市長）

（構成員：県、中部地域1市4町、交通事業者、学識経験者、利用者代表、公共交通関係団体、国、公安委員会、道路管理者等）

2 次期「鳥取県中部地域公共交通計画（案）」の概要

（1）計画期間 令和7年度～令和11年度（5年間）

（2）計画が目指す将来像

生活地域を一体化する公共交通ネットワークの充実で暮らしやすさを実現し、訪れる人にも優しくいつまでも住み続けられる中部地域

（3）基本方針と内容

基本方針	内容
基本方針1： 持続可能な 運行体制の 確立	<目標①：バス路線の効率化> 令和8年度中の運用開始を目指して路線バスに導入予定の交通系ICから得られる乗降データをもとに、利用実態に基づく路線再編を実施し、バス路線の効率化を図る。 ⇒事業例：倉吉市中心市街地における循環バスの導入検討 路線再編にあたっては、国庫補助を受けている路線への影響を勘案しつつ、倉吉駅と西倉吉を結ぶ循環バス導入を検討する。 <目標②：多様な運行の担い手確保> 若者や女性を中心としたドライバー確保に取り組むとともに、国が認めている金・土曜日の夜間の日本版ライドシェアを検討する。
基本方針2： 移動ニーズに 対応した運行 体制・環境の 充実	<目標③：地域内交通の充実> バス停まで歩けない方からのドアツードア型の移動手段を求めるアンケート結果等に基づき、各市町や集落単位での移動手段を検討する。 ⇒事業例：関金地区乗合タクシー実証結果の横展開 令和6年10月から実証運行されている関金地区乗合タクシーについて、中部地域の他エリアでの実施を検討する。 <目標④：快適な通学環境の整備> 通学利便性の高い運行ルートやダイヤ接続改善等のアンケート結果に基づき、交通事業者とともに公共交通による通学環境を整備する。 ⇒事業例：「通学スタイル」の見直し 公共交通機関での通学をおすすめするチラシ「通学スタイル」について、高校生等の意見を取り入れたより効果的な手法を検討する。 <目標⑤：観光移動環境の充実> 路線バスの観光向けルート検討等によって観光客の移動利便性を高めるとともに、公共交通と観光施設等の利用料をセットにした観光MaaSの商品開発を検討する。 <目標⑥：誰もが使いやすい公共交通の環境整備> バスやタクシー車両、交通結節点や待合所について、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮し、誰もが快適に利用し過ごせる環境を整備する。
基本方針3： まちづくりと の共創・交通 DX推進によ る利便性向上	<目標⑦：公共交通と他分野との共創> 公共交通の枠にとどまらず、福祉、教育、物流等様々な分野と連携した取組を行い、交通が抱える課題解決を図るとともに、まちの機能維持や活性化への貢献を目指す。 <目標⑧：交通DX・GXの推進と公共交通利用促進> キャッシュレス決済等の交通DXを進めるとともに、車両のEV化や自動運転等の交通GXについて研究・検討する。また、継続的に公共交通利用促進に取り組む。

(4) 検討経過及び今後のスケジュール

- ・ 令和5年4月～ 鳥取県中部地域公共交通協議会や県・市町・交通事業者によるワーキング会議等の開催、住民等へのアンケート調査を実施し、計画案を検討
- ・ 令和7年2月10日 パブリックコメント実施
～2月28日 (県ホームページで公開中 <https://www.pref.tottori.lg.jp/274380.htm>)
- ・ 令和7年3月末 鳥取県中部地域公共交通計画の策定
- ・ 令和7年4月以降 中部圏域内における地域公共交通利便増進実施計画の検討

鳥取砂丘コナン空港第2期コンセッションの募集要項等に関する説明会の開催結果について

令和7年2月21日

交通政策課

鳥取砂丘コナン空港の第2期コンセッション（以下「第2期事業」）では、「鳥取県営鳥取空港の設置及び管理に関する条例」に基づき、選定事業者を公募の方法によって選定することを予定しています。

このたび、第2期事業について、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）」（PFI法）第7条に基づき特定事業として選定し、令和7年2月3日に同法第8条に基づき民間事業者の選定手続（募集要項等の公表）を開始しました。これに伴い、令和7年2月18日に募集要項等に関する説明会を開催しましたので、その開催結果について報告します。

1 募集要項等に関する説明会の開催結果

（1）開催日時：令和7年2月18日（火）午後1時30分から4時まで

（2）開催方法：ハイブリッド方式（会場及びオンラインでの同時開催）

なお、当該説明会の録画映像については、本県ホームページにて公開予定である。

URL：<https://www.pref.tottori.lg.jp/item/1379312.htm#itemid1379312> 内

（3）開催概要：① 開会の挨拶（輝く鳥取創造本部 中山間・地域振興局長）

② 募集要項等に関する説明（同部同局 交通政策課 空港振興室長）

- ・鳥取空港の概要、鳥取県及び現運営権者（鳥取空港ビル(株)）が実施している事業、募集要項の概要、優先交渉権者選定基準の概要及び今後のスケジュールについて説明した。

- ・説明会の開催前から、説明会資料を本県ホームページにて公開している。

URL：https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1379312/250218_setsumeikaisiryoku.pdf

③ 質疑応答（回答：同部同局 交通政策課 空港振興室長）

- ・参加者からは、人件費や物価水準の著しい変動が生じた場合のリスク分担に関する質問のほか、第2期事業の制度及び優先交渉権者選定基準の内容の確認を目的とした質問が寄せられた。

（4）参加者数：会場参加者及びオンライン参加者をあわせて、22社（県内事業者10社、県外事業者12社）、合計45名程度が参加した。このうち、会場参加者は40名程度であった。

2 優先交渉権者（運営権者）の選定・公表までの流れ（今後の予定）

時 期	主な内容（審査過程は非公開）
令和7年2月26日（水）～2月28日（金）	● 募集要項等に関する質問受付（第1回）
令和7年3月26日（水）～3月28日（金）	● 募集要項等に関する質問受付（第2回）
令和7年4月11日（金）	● 募集要項等に関する質問への回答開示
令和7年4月25日（金）	● 第一次審査資料（参加表明書を含む）の提出期限
令和7年5月頃	● 第一次審査結果の通知
令和7年5月～8月頃	● 競争的対話等の実施
令和7年8月頃	● 第二次審査資料の提出期限
令和7年10月頃	● 優先交渉権者の選定・公表

3 第2期事業開始までのスケジュール（今後の予定）

年 度	主な内容
令和7年度	● 優先交渉権者の選定・公表、基本協定の締結、SPC設立（10月頃） ● 運営権設定及び債務負担行為に係る議会への附議（2月頃）
令和8年度	● 実施契約の締結・公表（4月頃）、業務引継期間（約1年間）
令和9年度	● 第2期事業開始（4月～）

第6回鳥取県サイクルツーリズム推進・連携会議の開催結果について

令和6年2月21日

観光戦略課

官民が協働して県内サイクルツーリズムを推進するため、関係者が情報共有、意見交換等を行う「第6回鳥取県サイクルツーリズム推進・連携会議」を開催したので、次のとおり報告します。

1 日 時 令和7年2月13日（木）午後1時30分～午後2時30分

2 場 所 とりぎん文化会館 第3会議室 ※オンライン併用のハイブリッド開催

3 出席者 鳥取県商工会連合会、コグステーション皆生、鳥取県サイクリング協会、鳥取県自転車商協同組合、全国旅行業協会鳥取県支部、西日本旅客鉄道（株）、高橋 幸博氏（アドバイザー）、国機関（鳥取河川国道事務所等）、17市町村、鳥取県（ほか）計33団体・個人

4 概 要

（1）ナショナルサイクルルート指定に向けた現状及び課題

- ・ナショナルサイクルルート（NCR）の次期指定は、早くて令和8年度を想定。
- ・令和4年度に策定した「鳥取うみなみロード整備計画」に基づく整備を進めた結果、走行環境整備の一部を除き、令和6年度中にNCR指定要件を達成予定。
- ・サイクリストから選ばれるルートとしていくため、NCR指定要件の達成に加えて、鳥取うみなみロードの一層の魅力向上が必要。

（2）対応策（会議協議内容）

鳥取うみなみロードの課題に対する対応策として、次の2点について協議し、出席者から了解をいただいた。

- ・走行環境整備に関し、路肩（交通量1万台/日以上区間は矢羽根の整備かつ路肩幅1m以上の確保が必要）の未整備区間において、引き続き、路肩確保に努めるとともに、有識者の助言を踏まえた対応策として、本ルートを迂回する比較的交通量の少ないサブルートを設定し、サイクリストの安全性の確保を行う。
- ・鳥取うみなみロードのより一層の魅力向上のため、サイクリストが立ち寄りやすく、SNS等による広報効果を狙った写真映えするスポット（モニュメント）の設置を行う。

（3）主な意見

- ・路肩が狭く、自転車で走る際に不安を感じるような箇所の解消に取り組んでほしい。（鳥取県商工会連合会）
- ・景色も良く、ゆっくり走って楽しめる海岸沿いの道や旧道の活用を検討してほしい。（日吉津村、大山町）
- ・走って面白く、美しい景色を楽しむことや交通拠点からのアクセスが大事。（とっとりサイクルツーリズムの会）
- ・サイクルトレインは、幅広い層の方にサイクリングを楽しんでもらえるツールであるとともに、二次交通における担い手不足の解消にもつながる。（西日本旅客鉄道（株））
- ・民間事業者を巻き込み、地域の機運を盛り上げていくことが必要。NCR指定の意義をもっと分かりやすい言葉で伝えることが大事。（アドバイザー）

5 その他

- ・鳥取うみなみロードの公式ロゴマークを決定し、2月6日に公表。
今後、鳥取うみなみロードのスタートゴール地点への表示や、
ダイジョウブシステム施設へののぼり設置などへの活用を進めていく。



大阪・関西万博に向けた本県の主な推進状況について

令和7年2月21日
関西本
観光戦略課

本年4月に開幕する大阪・関西万博に向けた本県の主な推進状況について報告します。

1. 関西パビリオン・鳥取県ゾーンの進捗状況

鳥取県ゾーンは3月下旬の完成に向けて、内装工事等と並行して展示制作物を製作中。また、案内・誘導、説明、管理業務等を行う運営スタッフの研修等を3月に実施します。



【関西パビリオン外観（1月下旬）】



【鳥取県ゾーンの様子（1月下旬）】

2. 鳥取県ステージイベント「今日は一日鳥取県～まんが王国ととりの魅力～」の出演者（第一弾）

鳥取県ステージイベント出演者（第一弾）を決定しました。

〔まんが王国ととりライブステージ スペシャルライブ（仮称）倉木麻衣（くらき まい）〕
〔郷土芸能披露 因幡の傘踊り保存会、高城牛追掛節保存会、淀江さんこ節保存会〕

その他のプログラム詳細や出演者等は、決定次第、順次公表します。当イベント観覧は事前予約制で、4月1日より予約受付を開始予定です。

主なプログラム構成：郷土芸能披露、知事・声優等トークショー、ライブステージ、特産品抽選会

期 日：令和7年7月1日（火）

場 所：EXPO ホール「シャインハット」※固定席約1,850席

3. リーベルホテル大阪への「とっとりリアル・パビリオン情報発信拠点」の設置

本県の魅力や観光情報、万博出展等を国内外に発信するため、万博会場へのシャトルバス乗降場が設置されるリーベルホテル大阪に「とっとりリアル・パビリオン情報発信拠点」を設置し、オープニングセレモニーを実施しました。

日 時：令和7年1月25日（土）10時50分～11時05分

場 所：リーベルホテル大阪（大阪市此花区）1F ロビー

出席者：鳥取県 平井知事

株式会社武蔵野 江上章雄 ホテル事業部長

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

広報・プロモーション局 木嶋 淳 地域・観光部長

展示内容：本県の万博出展（鳥取県ゾーン）紹介、

「とっとりリアル・パビリオン」の最新観光情報や食パラダイス鳥取県の旬の情報等をポスター、パンフレット、動画等でPR、週末には県産品マルシェの開催、PRラックは県産材「組手仕」



<参考：今後の主なスケジュール>

2月下旬～3月上旬 鳥取無限砂丘の砂 出発式（県庁）

4/12(土) 大阪・関西万博 開会式

4/13(日) 開幕（鳥取県ゾーン OPEN）

4/13(日) 食パラダイス鳥取県 PR（大阪外食産業協会(ORA) 外食パビリオン）

7/1(火) 鳥取県ステージイベント（EXPO ホール）

7/16(水)～21(月) 多目的エリア催事（産業、市町村、障がい者アート）

8/6(水) ジャマイカナショナルデー（EXPO ナショナルデーホール）

8/20(水)～25(月) 多目的エリア催事（物産、民芸、県産材等）

9/1(月)～7(日) 食パラダイス鳥取県 PR（大阪外食産業協会(ORA) 外食パビリオン）

10/8(水)～11(土) 障がい者の文化芸術国際フェスティバル（EXPO ホール、ギャラリーWEST）

国際航空路線の最近の動きについて

令和7年2月21日
国際観光課

県内空港における国際航空路線の最近の動きを次のとおり報告します。

1 米子台北便の就航

令和7年5月29日からタイガーエア台湾による米子台北便の就航が決定しました。初便の5月29日は、「2025日台観光サミット in 鳥取」の開催日であり、100人強の台湾側の出席者が搭乗する特別ダイヤで運航され、翌週以降は、月曜日と金曜日の週2便で運航されます。

米子台北便の就航に向けて、引き続き、タイガーエアと連携し、ホームページでの鳥取県特集記事掲載や台湾でのラッピングバス運行、山陰の旅行会社への説明会開催などインバウンド、アウトバウンド対策を一層加速させていきます。

【米子台北便概要】

- (1) 区間：台湾桃園交際空港－米子鬼太郎空港
- (2) 時期：令和7年5月29日（木）から
※初便は特別ダイヤで運航（13：00米子着－14：00米子発）
- (3) 機材：A320（座席数179人）
- (4) 時間：週2便（月・金）
月曜日：12：00米子着－13：00米子発
金曜日：16：50米子着－17：50米子発

2 米子ソウル便の増便

令和7年1月にエアソウルの代表理事に就任した金仲鎬（キム・ジュンホ）氏が2月18日に来県し、平井知事と面談を行いました。

面談において、キム代表理事から、令和7年夏ダイヤ（3月30日～10月25日）での週5便への増便が表明されました。また、鳥取砂丘や倉吉白壁土蔵群等の県内観光地を視察され、県内の美しい自然・風景を直接感じていただきました。

【増便後の米子ソウル便の概要】

	現在	増便後
運航曜日	水、金、日	月、水、木、金、日
運航時間	【水、金、日】 仁川空港発 13:20 米子空港着 14:50 米子空港発 15:50 仁川空港着 17:40	【月、水、金、日】 仁川空港発 13:25 米子空港着 14:50 （※月は13:35） 米子空港発 15:50 仁川空港着 17:40 【木】 仁川空港発 9:30 米子空港着 11:00 米子空港発 12:00 仁川空港着 13:30

【キム代表理事の主なコメント】

- ・雪をまとった神秘的な鳥取砂丘を体験し、風紋のでき方を学ぶなど鳥取県の美しい自然を感じることができた。
- ・鳥取県はパスポート取得を支援するなど韓国への送客に尽力いただいているが、更なる路線の活性化に向けて、インバウンドのみならず日本からのアウトバウンドについても引き続き協力をお願いしたい。



知事面談の様子

地域における外国人住民との共生推進研修会の開催について

令和7年2月21日

交 流 推 進 課

県内在住外国人は近年増加傾向にあり、国籍も多様化している中、外国人住民との共生を目指したまちづくりに向け、多文化共生の現状と課題、異文化理解の必要性等について学ぶことを目的として、2月4日及び5日に「地域における外国人住民との共生推進研修会」を開催しましたのでご報告します。

1 日時及び場所

- (1) 東 部 日 時：2月5日（水） 午後2時半から午後4時半まで
場 所：鳥取県立生涯学習センター（県民ふれあい会館）
- (2) 中 部 日 時：2月5日（水） 午前10時から正午まで
場 所：ホテルセントパレス倉吉
- (3) 西 部 日 時：2月4日（火） 午後1時半から3時半まで
場 所：米子コンベンションセンター

2 参加者

合計52名[東部18名、中部15名、西部19名]（市町村担当職員、鳥取県国際交流財団職員、多文化共生サポーター、NPO、行政書士、企業関係者等）

3 内 容

- (1) 講演会[講師：NPO法人 多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 ^{どい} 土井 ^{よしひこ} 佳彦 氏]
演題：多文化共生のまちづくりについて考える
主な講義内容：
 - ・日本全体で人口減少が進行する中、労働力としての在住外国人が急増。近年はベトナム、ミャンマー、インドネシアなど多国籍化しており、多種多様なルーツを持つ外国人が急増。
 - ・こうした中、国籍や民族等が異なる地域住民が互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きつつ、地域社会の構成員として共に生きていくことが重要。
- (2) 県、国際交流財団の在住外国人支援の取組説明
 - ・多言語による生活情報発信、外国人生活相談、NPO等による地域での相談、災害時外国人支援、地域日本語教育体制整備、医療通訳派遣、多文化共生支援者のネットワークづくりなど
- (3) 意見交換（参加者の声）

労働関係

- ・県内への在住外国人としてインドネシア、ミャンマーなど在住外国人の国籍も多様化しており言語の壁が問題。
- ・職場以外で孤立してしまうこともあり、地域社会との交流など人間同士のつながりを増やしていくことが大事。
- ・言語の壁が大きいことから日本人に対して英語以外の外国語（ベトナム語、ミャンマー語、インドネシア語等）を学ぶ機会を設けることが必要。

教育・子育て関係

- ・在住外国人の保護者に言葉の壁があり、学校からの電話に出ないなど、学校と家庭との連携が取れないケースがある。
- ・言葉ができなくてもお互いの顔を知っていることで、繋がりが生まれることがあるので、近所の人との繋がりを深めることが大事。
- ・外国にルーツのある子どもたちはもちろん、日本人の子ども達にも、自分の考えや文化を大切にしながら助け合って楽しく共に暮らしていくことが大事だということを伝えていきたい。

防災関係

- ・SNS等を活用して在住外国人に災害時の対応に関する情報を確実に届けていくことが必要。
- ・災害が起こった際、在住外国人を雇用している事業者頼みになっており、事業者と市町村防災担当課等との連携を深めていくことが課題。



研修会の様子